

2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/9/29

団体名	認定NPO法人優里の会	活動タイトル	児童虐待防止の広報啓発と支援のあり方			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景			
● 望ましい社会状況（ビジョン）	当法人の実現したいビジョンは、「家族がともに育ちあう家庭で、ひとりひとりの子どもが大切に育てられ、自分の力を地域や社会で発揮できる」である。児童福祉法に家庭養育優先の原則が明記された。国はできる限り家庭的環境の下で継続的に子どもは育てられるよう、里親養育の増加を打ち出している。子どもが家庭の中で大切に育てられ、健全な成長・発達をして、その力を発揮できるそのような社会になることをめざしている。		木下あゆみ氏 講演会 2020/11/6	 <p data-bbox="2433 798 2671 829">木下あゆみDrの講演</p>		
● 団体の社会的役割（ミッション）	当法人の社会的役割（ミッション）は、「すべての子どもに温かいな家庭を 将来に向かって夢を描ける力を」である。すべての子どもに温かいな家庭を提供する。特に虐待等で実親と離れて暮らさざるを得ない子どもにとっては重要なことである。安心・安全な場の家庭を子どもに提供するすることで、子どもは健全に育ち将来の夢を描くことができる。					
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ● 望ましい人的資源：児童福祉に対する理解と情熱を持ち、ソーシャルワーク、心理面での専門知識を有する人的資源を確保すること。 ● 望ましい物的資源：事業で活用する事務所、研修室等の場所を確保し、誰でもいつでも気軽に訪れることができる場にする。 ● 望ましい活動資金：タイムリーな活動ができる、法人の裁量や工夫の余地が大きい自主財源（会費、寄付、クラウドファンディング等）を十分確保し、効果の高い支出が行える財政力を保持していること。 ● 望ましい情報：子どもの置かれている現状と国の施策の情報、地域の実情の情報、活動方法の専門的助言をコンサルテーションした情報が必要である。またスタッフの資質向上を図るため、研修の情報が必要である。その情報をもとに、今の活動が効果的であるかどうかの検証も行っていく。 					
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
<p>【虐待防止講演会】 講演会：医療現場で児童虐待防止に取り組む木下Drの講演には、会場92名オンライン66名の参加があり、医療関係者だけでなく様々な立場の参加者にも共感を呼び、虐待防止への意識向上につながった。</p> <p>【虐待防止冊子】 その講演会の内容も含めた児童虐待防止を啓発する冊子を作成し、関係者だけでなく出前講座やパネル展示会などの機会を捉えて多くの方に配布した。</p> <p>【里親ピアサポーター養成】 ピアサポーターの養成では、まずは里親サロンにおいて里親同士の交流を深めることができた。また、講演会でのスタッフとして里親が参加することができた。</p>			<p>【虐待防止冊子】 ・児童虐待防止冊子は、6,000部発行し3,500部配布している。次回の冊子発行までにさらに多くの方に配布したい。 ・読後の回答から約30%が2段階、約55%が1段階意識の向上が見られた。</p> <p>【虐待防止講演会】 ・会場での参加92名、オンラインでの参加66名があり、当初の目標である200名には及ばなかったがこれまでの講演会では最も多い参加者数となった。 ・参加者のアンケート回答から、約34%が2段階、約57%が1段階意識の向上が見られた。</p> <p>【里親ピアサポーター養成】 ・里親サロンへは35%の対象里親が参加し、のべ8名の里親が里親サロンにスタッフとして参加することができた。</p> <p>【冊子発行や講演会のスタッフの養成】 ・講演会へは4名の里親が参加し、そのうち2名がスタッフとして参加した。</p>		餅つきサロン 2020/12/12	 <p data-bbox="2315 1491 2789 1522">餅つきサロンにおける里親さん同士のサポート</p>
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題			
<p>新型コロナ感染状況下での講演会は、会場だけの参加者を募るのは困難と考えオンラインとの併用で行うことで、より多くの参加者を集めることができた。事後のアンケートを集計するのに、Googleフォームを利用すると効果的であった。</p> <p>里親サロンや講演会などのイベントを通して、里親さん同士が交流を盛んにしようとする意欲の向上をはかることができた。今後もイベントへの参加を勧めることが大切である。</p>			<p>児童虐待は、特別なことではなくどこでも起こりうることを、より多くの市民に理解を促すこと。</p> <p>里親に限らず一般の子育てにおいても、安心安全に子どもたちが養育されるためには、細やかなサポートを充実させたり、親同士子ども同士の交流を深めたりすること。そのようにすることで、子どもたちを社会全体で育てるという意識を醸成する。</p>		この1年間の活動を通じて	児童虐待防止実現のため、多くの人への理解を促進すること を達成しました。
			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			
			■ 受益者の具体的な変化（自由記入）			
			<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に気づいたら傍観者にはならず、もっと「おせっかい」になると思った。 ・今回の講演会で得たものを今後の業務にいかしたい。 ・虐待防止のために、関係者と情報共有をもっとしっかり行いたい。 <p>このように、講演会を通して前向きな感想があった。</p>			